

* 大発見：フランス製プランの子午儀発見

フランス製プランの子午儀が大正14年、東京と水沢に輸入されたことが科学画報（昭和2年(1927年)1月）臨時増刊号の「日本に於ける天文学史」に出ている。この2台の内の1台は鏡筒部分の一部が三鷹の天文情報センター倉庫で発見されて子午儀資料館に展示されている（写真1）。もう1台は水沢 VERA 観測所に完全な姿で保存（写真2）されていたとアーカイブ室新聞第4号でお知らせした。三鷹にあった鏡筒部の一部の他の部分や架台部が見つからないのは残念であったが、この2台が日本にあるフランスから輸入されたプランの子午儀であると思っていた。

ところが、2008年10月20日、PMCに展示してある120mm双眼鏡が展示品としては面白くないので、タワーで使っていた分光器のカメラレンズと置き換えたいと考えており、そのカメラレンズを1人で運べるのではと、保管してある基線尺倉庫に行ってみた。ところがこのカメラレンズは非常に重く1人では運び出せない事がわかり、助力を得るまであきらめ、基線尺倉庫の中の調査を始めた。

まだ開いていない大きな比較的浅い木箱があり、その上にあった大きな輸送用の木箱を、そこにあった材木をレールにして滑らせて下ろし、大きな浅い木箱を開いてみた。なんと、金色に輝く「フランス製プランの子午儀」が入っているではないか、対物レンズもある、焦点部もある、ほぼ完全に見える（写真3）。「宝を発見！」である。その大きな箱が載った机の奥には少し背の高い大きな木箱があり、その上にも重い段ボール箱が載っていた。その背の高い木箱の扉は奥の方向に付いていたので、扉を開ける空間を作る必要があった。まずプランの子午儀の木箱の載った机を引き出すために、その箱の載った机の下段に大きな重い段ボール箱が2個あったが、自慢の力でそれらを引き出した。次にその木箱の扉が開ける空間を作るべく、その背の高い大きな木箱を引き出すために、箱の上のダンボール箱が破れるのもかまわず力自慢の腕っ節で木箱の上から引き摺り下ろした。段ボール箱からは狸が持ち込んだ木の実や糞がざらざらと落ちたがかまわず段ボール箱をどけ、その大きな木箱を引きずり出した。扉を開けるとなんとプランの子午儀の架台（写真4）らしきものが入っているではないか。大発見だ。フランス製のプランの子午儀をほぼ完全な形で復元できる。

これは興奮せざるを得なかった。

部屋に帰り、同室の中根さんに「大発見！」をしゃべり、近くの佐藤英さん、松田君にこの大発見を報告し、センター長に知らせに3階に駆け上がった。センター長に知らせ、大部屋にいた人たちにこの大ニュースを知らせた。

多くの貴重な古い機械類が捨てられたと嘆いていたが、その一つはこのようにして発見

された。まだこのようにして出てくる事を願っている。



写真1 三鷹のプラン子午儀の一部



写真2 水沢のプランの子午儀

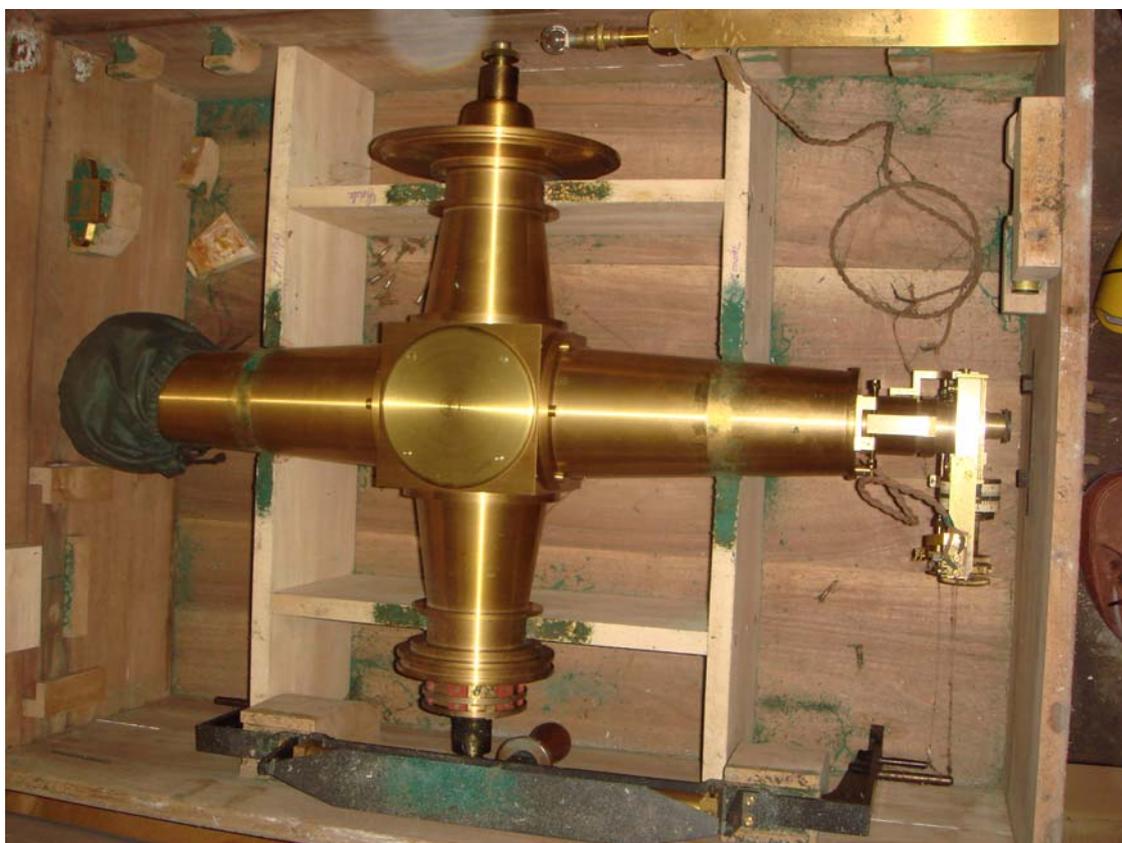


写真3 三鷹で2008年10月20日に発見されたプランの子午儀

写真3で見るかぎり、水沢のプランの子午儀とそっくりではないか。素晴らしい！



写真4 発見されたプランの子午儀の架台部と思われるもの

写真4で見ると、ローラー軸受けを上げ、東西を反転するハンドルも見える。

これらはまだ発見したばかりで、基線尺倉庫から持ち出していない。これらを持ち出すには5~6人の人手が必要である。これをPMC 望遠鏡フロアで復元し、展示すれば収蔵品の目玉の一つになる。お力添えをお願いしたい。

写真5は発見時にプランの子午儀の鏡筒部が入っていた木箱でその脇には「佛プランNo. 7 2ヶの中2」と書かれていた(写真6)。



写真5 鏡筒部が入っていた木箱



写真6 佛プランの文字

また、架台部分が入っていた木箱が写真7である。



写真7 プラン子午儀の架台部分が入っていた木箱

これで、1台は鏡筒部の一部しかないとはいえ、これでは日本に輸入されたフランス製プランの子午儀は3台になってしまう。さて、理学博士ABCによって書かれた科学画報の記事を検証する問題が持ち上がった。もっともその記事には、東京と水沢に輸入されたとあるのみで台数は書かれていない。次々と発見があり、問題が出てくる。人生は楽しい！

なお、最後になったが、このプランの子午儀はすばる解析研究棟が建っている場所にあった連合子午儀室（写真8）の4号室に設置されていたものである。



写真8 連合子午儀室